

津波避難

2022年
保存版

鹿部町

ガイドブック



鹿部町役場

〒041-1498 北海道茅部郡鹿部町字鹿部252番地1

TEL:01372-7-2111

<https://www.town.shikabe.lg.jp/>

津波から命を守るには…ためらわずに避難を

津波から命を守るには、ためらわず避難をすることが大事です。そのためには、どこが安全でどこが危険か、またどこにどのように避難するのかを事前にハザードマップで確認し、津波に関する知識を身につけておくことが大切です。

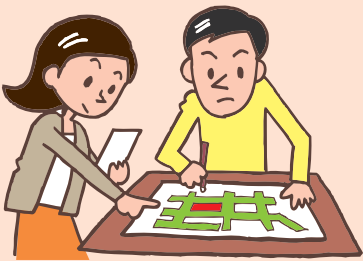
ハザードマップで確認しましょう

住んでいる地域の津波の危険性

津波ハザードマップに表記してある浸水区域の津波レベルは「最大クラス津波(L2津波)」で、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波を設定しています。鹿部町に襲来する全ての津波がハザードマップのとおり範囲で浸水するわけではありません。気象庁が発表する津波警報を正確に入手し、その時その時に合った避難行動を行うことが大事です。

住んでいる地域の避難目標地点・避難場所・避難経路

自宅、学校、職場から一番近くの避難目標地点や避難場所を確認し、その場所までの経路が安全であるか確認しましょう。またその避難目標地点や避難場所が高い場所なのかを確認しましょう。

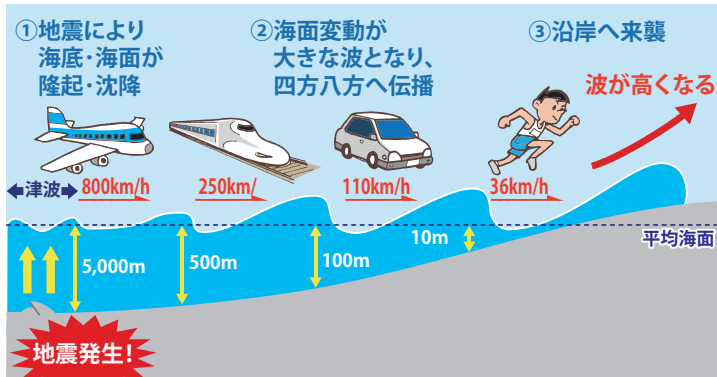


津波に関する知識を身につけましょう

津波の特徴

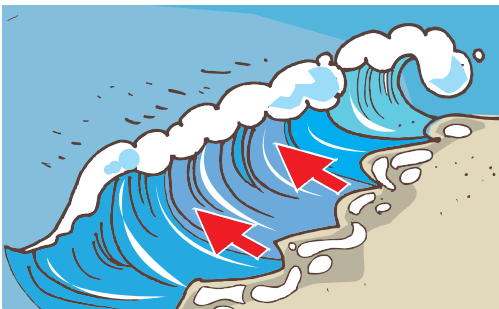
津波の速さ

津波の速さは、沖合ではジェット機なみの速さで伝わります。水深が浅くなるにつれて速度は弱まりますが、それでも深さ10mの海岸近くでは、短距離走選手なみの速さで陸上に押し寄せるので、普通の人走って逃げ切れるものではありません。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。実際に津波が見えなくても、迅速に避難することが大事です。



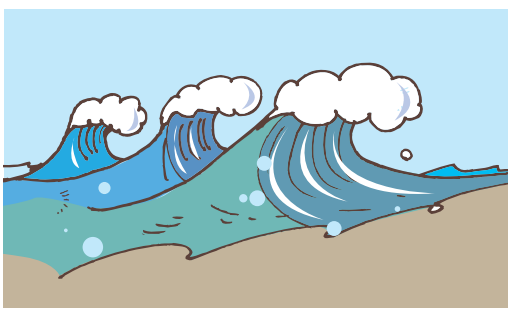
押し波と引き波

津波は引き波で始まる場合もあれば、押し波で始まる場合もあります。先に引き波が来た時は、潮が引いて、普段見えない海底が現れたりしますが、それを津波と知らず近寄ると、次に来る押し波にさらわれる危険があります。津波警報が発表されたら迅速に避難することが大事です。



繰り返し襲ってくる津波

津波は1回限りではなく、2波、3波と何度も繰り返します。必ずしも第1波が一番高いとは限らず、第2波、第3波あるいは第1波から数時間以上経過してから最大の波が到来することもあるので、津波警報が解除されるまで海岸や河川に近づくことはせず、高台の避難場所にとどまることが大事です。



津波の威力

津波の高さは50cmでも危険

50cmの津波でも、秒速およそ2mで海底の砂や砂利を巻き上げてやってくると、身体には0.3トンの力が働きます。そうすると立ってられずに転倒し、津波と一緒に流されてしまいます。

津波の破壊力

浸水深が2mになり、そのときの流速が毎秒4mを超えると、木造住宅ごと流されるおそれがあります。



津波警報・注意報を知っておこう

気象庁が発表する津波警報等の発表基準と高さの予想の区分

津波による災害の発生が予測される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報、津波注意報を発表します。その後、「予想される津波の高さ」「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ 予想の区分)	巨大地震の 場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	木造住宅が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 
		10m (5m<予想高さ≤10m)		
		5m (3m<予想高さ≤5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

津波警報・注意報と避難のポイント

マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合は、「巨大」という言葉を使った大津波警報で、非常事態であることを伝えます。「巨大」「高い」という言葉での発表は非常事態です。東日本大震災のような津波が来ると思って、一刻も早く避難してください。



高い津波が来る前は、津波の高さを「観測中」として発表します。大津波警報や津波警報が発表されているときには、観測された津波の高さを見て、これが最大だと誤解しないように、津波の高さを数値で表さずに「観測中」と発表する場合があります。※津波は何度も繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が高くなる場合があります。

震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。

地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」を発表します。

津波は沿岸の地形などの影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。津波は長い時間繰り返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。



避難行動を知っておこう

迅速な避難をするために

日頃からの 避難場所・避難経路の確認

日頃から、どの経路でどこへ避難するか、身近にある危険な場所はあるかを確認し、家族や地域で避難方法などについて話し合っておきましょう。津波到達時間が5分程度で襲来する場合もあるため、ハザードマップでいち早く避難できる高台を確認しておくことも大切

です。また、隣近所などの身近に避難のお手伝いが必要な人が居ないかも確認しておきましょう。



避難情報に従いましょう

避難に関する情報を無視するのは、きわめて危険な行為です。必ず従いましょう。津波警報が発表されたら、いつでもハザードマップに示された区域が浸水するとは限りません。その時その時に合った避難が行えるように備えておきましょう。

また、役場が被災する可能性もあるため避難情報が発令される前に津波が襲来する場合があります。

どんな状況でも情報を掴めるように携帯ラジオ等を常備しておきましょう。

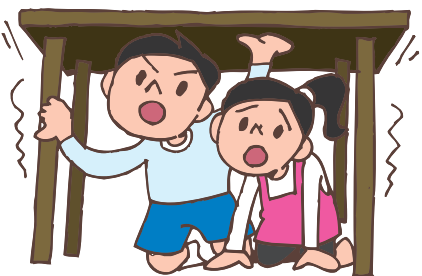


地震が起きたらとるべき行動

地震発生

身の安全の確保

強い揺れを感じたら、まずは自分の身を安全に守るように心がけましょう。現在は震度5弱以上の揺れを感知すると、自動的にガスが止まるようになっていないため、慌ててコンロの火を止める必要はありません。大きな揺れの中、無理に消そうとするのはやけどをするおそれがあり大変危険です。



揺れがおさまったら 火の始末・出口の確保

揺れがおさまったら、火の始末を行いましょう。必ず消火器を備え、すぐに使用できるところに置いておきましょう。消火器の使用方法は、日頃から確認しておきましょう。また余震に備え、ドアを開けるなど出口を確保しましょう。



わが家の安全確認・ 避難の準備

家族や隣近所の安全を確認しましょう。余震で被害拡大のおそれがある場合はすぐに避難を開始しましょう。避難する場合には、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めてから避難しましょう。外出中の家族のために避難先や安否情報を書いたメモを残すことも大切です。



津波浸水想定区域内に自宅などがある場合は

強い揺れや、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら、「すぐに避難」を心がけてください。揺れがおさまってから、テレビなどで情報を確認せず、電気のブレーカーを落としてすぐに避難を開始しましょう。避難しながら情報を確認しましょう。

※地震の揺れは小さくても大津波の危険性があります。

明治三陸地震津波(明治29年)では、震度3程度だったにもかかわらず、予想に反して大津波が発生しました。

東日本大震災の 津波避難行動の教訓

- 安全に避難するには**早期避難**が重要
- 避難の呼びかけや**率先避難**が避難をうながす要因になる
- 迅速に避難した人は、津波襲来に対する意識が高い
- 「家族を探す」「忘れ物をとりに自宅へ戻る」などの行動が**避難を妨げる**
- 車で避難した人の1/3が**渋滞に巻き込まれ被害にあった**



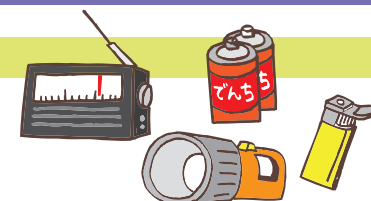
非常持出品・非常備蓄品を備えよう

非常持出品

非常時にまず最初に持ち出すもの

ラジオ・照明器具

携帯ラジオ、懐中電灯、予備の電池、ライター・マッチなど



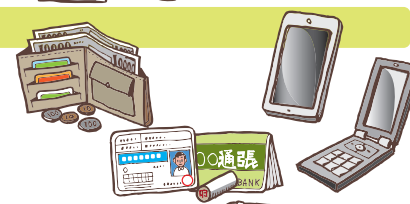
非常用食品

缶詰・カンパンなど火を通さずに食べられるもの、水など



貴重品

現金(小銭も準備)、通帳、免許証、健康保険証のコピー、携帯電話 など



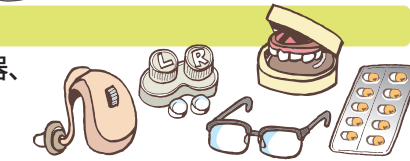
衣類、救急・衛生用品

上着、下着、タオル、軍手、雨具、マスク、消毒液、体温計、スリッパ、ばんそうこう、ウェットティッシュ など



各自必要なもの

メガネ、コンタクトレンズ、補聴器、入れ歯、普段飲んでいる薬、お薬手帳のコピー など



移動に必要なもの

ハザードマップ、リュックサック、運動靴 など



家族構成に合わせて準備しましょう

●高齢者や身体の不自由な方がいる家庭

介護・看護用品、紙おむつ、服用薬など身体状況に合わせて準備しましょう。



●赤ちゃんがいる家庭

粉ミルク、ほ乳びん、おむつやミネラルウォーターなど。お子さんの状況によっては離乳食やスプーンも準備。



非常備蓄品

災害復旧までの数日間(最低3日間)生活できるように備えておくもの

飲料水・食料品

カップ麺、レトルトご飯、缶詰、レトルト食品、冷凍食品など
水は1人1日3ℓが目安



調理器具

カセットコンロ、ガスボンベ、やかん、なべ、おたまなど



洗面用具

水がなくても洗える
ドライシャンプーなどもあるとよい



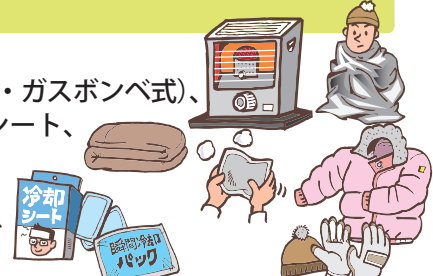
生活用水

断水になった時のために、風呂やポリ容器に貯水しておくのもよい



寒さ・暑さ対策

身体を温める：
ポータブルストーブ(電池式・ガスボンベ式)、使い捨てカイロ、サバイバルシート、防寒着、手袋、帽子、毛布など



身体を冷やす：
冷却シート、瞬間冷却材など

長期保存できる日用品や生活必需品

ティッシュペーパー、トイレトペーパー、ラップ、予備電池、予備ガスボンベなど、災害時に入手困難になる可能性があるため、長期保存できるものは多めに備えておく



停電に備えましょう

停電による給水ポンプの停止などによる断水に備えましょう。

(飲料水の備蓄、常に風呂に水をはっておく、給水された水を入れるポリ容器や、水を使わない簡易使い捨てトイレを備えておく)



停電が起きてからでは、店に人が殺到し、商品が不足するため欲しいものも買えません。また停電が復旧しても物流が途絶えているため、食料品や日用品がしばらく買えない可能性も高いです。災害時に役立つものや普段から必要不可欠なものを**事前に多めに備えておく**ことは非常に重要です。また、ガソリンも普段から残量が1/3ほどになったら給油するようにしておくことで安心です。

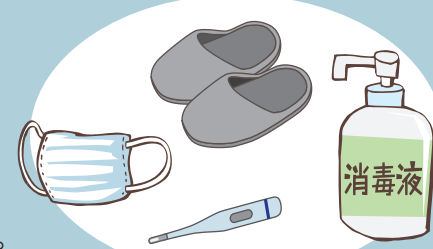
停電復旧時の火災を防ぐため、ブレーカーを落とし、復旧後に戻すようにしましょう。



感染症が心配される中でも、災害時には**危険な場所にいる人は避難することが原則**です

知っておくべき避難の③つのポイント

- 1 避難先は、町の避難場所だけではありません。
安全な場所に住んでいる親戚・知人など頼れる人がいれば、そこに避難することも考えてみましょう。
- 2 マスク・消毒液・体温計・スリッパなど、できるだけ**自ら**携帯しましょう。
- 3 やむをえず**車中泊**をする場合は、危険な場所ではないか**周囲の状況等**を十分確認してください。また、その場合は**定期的な運動や換気**などを心がけてください。



「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう!

避難場所一覧表

わが家の防災メモ

避難目標地点



避難目標地点とは、切迫した津波の危険から、生命の安全を確保するために避難の目標とする地点

町内会など	避難目標地点
大岩地区全域と鹿部地区全域	大岩墓地、避難階段、一般国道 278 号線(鹿部バイパス)、町道鹿部 2・3 号線、町道水源地道路線
第 14 区	鹿部公園
第 15 区 A	鹿部公園
第 15 区 B	鹿部公園
第 16 区	鹿部公園
第 17 区 A	鹿部公園
第 17 区 B	鹿部公園
第 17 区 C	鹿部公園
第 18 区、第 19 区 A・B・C	道道大沼公園鹿部線を大沼方面へ (自動車避難)
第 20 区から第 24 区	鹿部飛行場 (自動車避難)
第 25 区	鹿部カントリークラブ駐車場 (自動車避難)
第 26 区	ひょうたん沼公園、鹿部カントリークラブ駐車場 (自動車避難)

津波時避難場所



津波時避難場所とは、津波の危険から身を守るために緊急的に避難する場所。
また、避難した住民等が津波の危険性がなくなるまで必要期間滞在したり、
または津波により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に避難生活を送るための施設。

No	施設名称	所在地	連絡先	津波時避難場所		避難目標地点
				地震時	津波時	
1	大岩地域会館	字鹿部 258-18	01372-7-3369			—
2	渡島リハビリテーションセンター体育館	字鹿部 258-7	01372-7-3321			—
3	鹿部小学校	字宮浜 314-1	01372-7-3334	×	×	×
4	鹿部小学校グラウンド	字宮浜 314-1	01372-7-3334	×	×	×
5	鹿部中央公民館	字宮浜 311-2	01372-7-3124	×	×	×
6	鹿部中央公民館駐車場	字宮浜 311-2	01372-7-3124	×	×	×
7	鹿部カントリークラブ駐車場	字本別 530-248	01372-7-3131	—	—	○
8	ひょうたん沼公園	字本別 540-201	01372-7-2111	—	—	○
9	鹿部飛行場	字本別 450-1	01372-7-3388	—	—	○
10	鹿部公園	字鹿部 214	01372-7-2111	—	—	○
11	大岩墓地	字大岩 143	01372-7-2111	—	—	○

避難場所のメモ 地震・津波が起きたら、どこに避難すればいいのかをメモしておきましょう

避難目標地点	津波時避難場所	家族が離れたときの集合場所
! まずは近くの避難目標地点へ避難しましょう		

家族のメモ 家族のデータを記入しておきましょう

家族の名前	生年月日	血液型	持病・常用薬 アレルギーなど	会社・学校または携帯電話番号等 連絡先
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)		TEL メール
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)		TEL メール
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)		TEL メール
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)		TEL メール
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)		TEL メール

電話がつながりにくい時は **災害用伝言サービス** の利用を！
～万が一大きな災害のときに連絡が取れなくても、安否情報を確認め合うことができるサービスです～

災害用伝言ダイヤル 171

電話を利用する声の伝言板です。

自分が伝言を録音するとき

171 にダイヤルする (ガイダンスが流れます)

1 を押す

被災者の方はご自宅の電話番号を、被災地域以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番から入力してください

1# を押し録音する(30 秒)

9# を押す (終了)

相手の伝言を再生するとき

2 を押す

1# を押すと再生が始まる

固定電話や公衆電話・携帯電話・PHS・IP 電話が利用可能です

携帯電話各社の災害用伝言版

携帯電話などを利用して安否の登録・確認が可能です。大規模な災害が発生し被災地との連絡が困難になった場合に災害用伝言版が開通されます。

登録方法

各社公式サイトトップ画面 **災害用伝言版** を選択

登録 を選択

「無事です」などの状態の選択と、100 文字以内のコメントを入力する

登録 を押して完了

確認方法

確認 を選択

安否確認したい方の携帯電話の番号を入力して検索する

防災機関などの連絡先			
警察 110 番	森警察署鹿部駐在所 01372-7-2861	鹿部町役場	01372-7-2111 鹿部町ホームページ https://www.town.shikabe.lg.jp/
火事・救急車 119 番	鹿部消防署 01372-7-3331	病院	しかべ内科診療所 01372-7-3399 渡島リハビリテーションセンター 01372-7-3321

